

平成28年1月21日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 山形県教育委員会
 所在地 山形市松波二丁目8番1号
 代表者職氏名 教育長 菅野 滋

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	やまがたけんりつつるおかみなみこうとうがっこう	ふりがな	しばた ようこ
学校名	山形県立鶴岡南高等学校	校長名	柴田 曜子
ふりがな	やまがたけんりつつるおかちゅうおうこうとうがっこう	ふりがな	いとう よしき
学校名	山形県立鶴岡中央高等学校	校長名	伊藤 吉樹
ふりがな	つるおかしりつつるおかだいにちゅうがっこう	ふりがな	かとう のぶ
学校名	鶴岡市立鶴岡第二中学校	校長名	加藤 忍
ふりがな	つるおかしりつちょうようだいさんしょうがっこう	ふりがな	くりた ひであき
学校名	鶴岡市立朝暘第三小学校	校長名	栗田 英明
ふりがな	つるおかしりつちょうようだいごしょうがっこう	ふりがな	おおつか ひとし
学校名	鶴岡市立朝暘第五小学校	校長名	大塚 等
ふりがな	つるおかしりつきょうでんしょうがっこう	ふりがな	さとう のりこ
学校名	鶴岡市立京田小学校	校長名	佐藤 典子
ふりがな	つるおかしりつさかえしょうがっこう	ふりがな	さいとう ゆうこ
学校名	鶴岡市立栄小学校	校長名	齋藤 祐子

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

郷土鶴岡の良さを世界に発信できる確かな英語力を育むために、小学校第3学年から英語教育を開始するための教育課程、教材及び指導・評価方法並びに、小中高10年間の系統性ある指導と郷土学習の進め方について研究開発を行う。

(2) 研究の概要

郷土の良さを世界に発信することができる確かな英語力の育成に向けて、以下の2点について研究を進める。

(1) 小中高10年間の系統性ある指導と評価の在り方について

- ・小学校第3、4学年より活動型の英語教育を週当たり1コマ、第5、6学年において教科型の英語教育を週当たり3コマ実施するための教育課程の在り方、補助教材の効果的な活用方法、モジュール学習に対応した教材の選定・開発、発達段階に応じた適切な指導法と評価法の研究
- ・高等学校卒業時までの10年間を見通した体系的な指導プログラムの作成及び4技能に係る一貫した具体的な指標形式（CAN-DO形式）の作成と適切な評価方法の研究
- ・中高共通の指標（GTEC for STUDENTS）による成果の検証

(2) 郷土学習と英語による発信について

- ・社会科や「総合的な学習の時間」等との教科横断的な授業展開の工夫
- ・郷土学習（歴史、産業、観光など）教材の開発
- ・郷土学習を土台とした小中高児童生徒間交流の実践と発信

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

ア 現状の分析

山形県における英語教育に関する現状は以下のとおりである。

対象	内容	山形県	全国
小学校6年生	英語が好きな児童	75.4%	76.2%
中学校3年生	英語が好きな生徒	53.8%	53.0%
中学校3年生	英検3級程度	30.2%	約32%
高校3年生	英検準2級程度	35.5%	約31%
中学校英語教員	英検準1級程度	18.8%	27.8%
高校英語教員	英検準1級程度	42.1%	52.7%

注：平成25年度のデータ

<課題>

- ・小学校では、英語の教員免許状を保有している教員の割合は4.7%であり、指導に負担感や苦手意識をもっている教員が多い。また教員によって指導方法が違ったり、教材やALTの活用状況も異なったりと、取組に差がある。
- ・小学校の状況を受け、中学校では、ほぼ0からのスタートとなってしまう、児童の学習意欲を減退させ、接続がうまくいっていないとは言えない。
- ・中学校では4技能を統合した言語活動中心の学習を、比較的ゆっくりとしたスピードで進むが、高等学校に進学すると、急に学習内容が高度化し、読解量も大幅に増え、英語に苦手意識を持つ生徒が増える傾向がある。

このような現状を踏まえ、山形県では、国の動きと連動し、初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、平成27年度から「山形県英語教育改善プラン」を県全体で展開し、児童生徒が自信をもって英語で表現し、郷土の魅力を内外に発信できるような「英語を用いたコミュニケーション能力」の育成に取り組む。 <別紙1参照>

その一環として、小学校における「外国語活動フォローアップ事業」を実施する。全県8地区に英語を指導できる日本人外部人材計25名を非常勤講師として配置し、外国語活動に負担感や苦手意識をもっている教員の指導力の向上と、新教材の作成、英語活動に活用できる郷土資料の発掘・開発を補助する。

また、2つ目の重点施策として、本事業である「英語教育強化地域拠点事業」を活用し、地域を限定した小中高大連携プログラム『世界に羽ばたけ！出羽さんさんプロジェクト』を実施し、地域全体で10年間を見通した指導を行う。その成果を中高共通の指標（GTEC for STUDENTS）により検証し、指導改善につなげ、その成果を全県に広めていく計画である。

<別紙2参照>

本事業の拠点となる鶴岡市は、周囲を山岳信仰で名高い出羽三山に囲まれ、古くから城下町として栄え、旧庄内藩校致道館の学び（「庄内論語」等）の伝承や国の重要無形民俗文化財として指定されている庶民伝承の黒川能など、伝統的な文化が根付いている。昨年12月には、独特の食文化が世界的に認められ「ユネスコ創造都市ネットワーク食文化部門」に加盟するなど、国際社会での知名度も上がりつつある。また、

市内には山形大学農学部、時代の先端を走る慶応義塾大学先端生命科学研究所、そして人口コモ糸繊維を開発した地元発のベンチャー企業スパイバー株式会社があり、「知の最先端」を行く地域でもある。当然のこととして、外国語（特に英語）教育に対する関心は非常に高い。

このような地域の状況を踏まえ、鶴岡市では長年に渡り、中学校のブロック単位で小・中学校全教員を参加対象とした「ブロック研修会」を行っており、小・中学校間の連携を目指した教育活動が進められてきた。小学校での外国語活動も盛んで、ALT（現在は7名）との協同のもと、どの小学校でも全学年で外国語活動が行われている。今回指定の4つの小学校の児童は、ほぼ全員が鶴岡第二中学校に進学する。さらに、鶴岡市立第二中学校は、平成24年に鶴岡中央高校の研究協力校として指定され、主に教員の授業交流等に取り組み、中学校と高等学校の連携実績がある。その県立鶴岡中央高等学校は、平成21年度の国の研究指定から始まり、「スピーク・アウト」推進事業を6年間行い、生徒の英語による発信力の育成に力を入れてきた。もう1校の県立鶴岡南高等学校は、国のスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）指定校であり、「総合的な学習の時間」を活用した『鶴南ゼミ』を核に、山形大学や慶応義塾大学先



端生命科学研究所との連携を密にしながら、理数科のみならず学校全体で「探究型」の学習を推進しており、2年生は台湾研修旅行で英語のプレゼンテーションを行い、交流を進めている。

一方で、英語を用いた確かなコミュニケーション能力の育成に向けて、また、2020年からの小学校高学年での英語教育の教科化に向けて、高等学校卒業時までの10年間を見通した体系的な「英語教育プログラム」の整備が課題となっている。

イ 研究の目的

前述の課題を踏まえ、小学校中学年よりの英語教育の開始と小学校高学年での時数増及びモジュール学習の実施に対応できる特別な教育課程を編成し、発達段階に応じた活動を系統的に実践することにより、それらを機能させる教材・指導法・評価方法に関する実証的資料を得ること、また、異校種間のつながりのあるカリキュラムを作成し、学びの連続性を生み出すことで、郷土を発信する確かな英語力の育成を目的とする。

また、郷土学習を進めることで、児童生徒が、郷土の魅力を再発見し、ふるさとに誇りをもつと同時に、英語による児童生徒間交流を中心に「あこがれ」や「自尊感情」の創造を目指す。

②研究仮説

【研究仮説1】10年間の系統性ある指導と評価

- ・小学校中学年からの英語教育の実施や高学年での時数増に対応する教育課程の編成、モジュール学習を活用した短時間かつ継続的な指導、適切な教材・指導法・評価の実施等に中学校区が一体となって取り組むことで、英語教育早期開始の妥当性、児童生徒の学習意欲、英語運用力の量的・質的な変化に関する有効な実践資料が得られるであろう。
- ・小学校4年、中学校3年、高校3年、計10年間を見通した4技能に係る到達目標をCAN-DO形式で作成することで、教員同士が共通のゴールのイメージをもち、指導や評価方法に系統性が生まれれば、児童生徒の英語のコミュニケーション能力をより高い次元に引き上げることができるであろう。

【研究仮説2】郷土学習と英語による発信

- ・他教科や「総合的な学習の時間」を活用して、児童生徒が鶴岡市の伝統的な文化や魅力を再発見し、その魅力を英語で発信できれば、鶴岡市民としてのアイデンティティと誇りや自信が芽生えるであろう。
- ・小中高児童生徒間交流を通じて、上級生の姿に「あこがれ」をもち、また、教え合い学び合うことで、英語学習に対する意欲が高まるとともに「自尊感情」が生まれるであろう。

③研究成果の評価方法

【研究1】10年間の系統性ある指導と評価

ア 「教育課程に関すること」については、下記の資料の精査により評価する。

- ・ 各校の教育課程表、教育課程実施状況調査（毎年度末に市教育委員会が実施）
 - ・ 年間教育計画
- イ 「教材や指導方法に関すること」については下記の資料に基づいて評価する。
- ・ 4技能に係る具体的な指標を示すリスト（CAN-DO リスト）
 - ・ GTEC for STUDENTS のスコア（毎年、中学校は7月、高校は12月に実施予定）
 - ・ その他各学校において実施している考査（標準化された結果の得られるもの）
 - ・ 4技能に係る評価方法（特にパフォーマンステストの実施状況と内容）
 - ・ 各種映像資料（授業ビデオ、発表者を記録したビデオなど）
 - ・ レポートなどの学習成果物
 - ・ アンケート等の意識調査（対象：児童生徒、教職員）
 - ・ 英語学習に対する関心・意欲・態度の変化
- ウ 「異校種間の連携に関すること」等については下記の資料に基づいて評価する。
- ・ CAN-DO リスト（小中高）
 - ・ 授業参観及び乗入授業の実施回数、実施教員数
 - ・ 授業研究会等の実施回数、参加者数
 - ・ 高校入門期の「橋渡し教材」
 - ・ 高校配置外国人常勤講師の小中訪問回数
 - ・ 高校生による小学校での英語活動補助や絵本の読み聞かせの回数、感想
 - ・ 小中高合同での英語キャンプでの様子、アンケート結果
 - ・ 学校代表合同発表会での生徒の様子、アンケート結果

【研究2】郷土学習と英語による発信

下記の資料に基づいて評価する。

- ・ 郷土のよさを題材にした独自教材
- ・ 小学校：学習成果物（鶴岡を紹介するアルファベット・カルタ、英語観光マップ等）
- ・ 中学校：学習成果物（鶴岡市内の観光名所や伝統文化、食文化を紹介する冊子“**My Favorite Tsuruoka**”）
- ・ 高等学校：学習成果物（小学校から慣れ親しんでいる「庄内論語」の英訳、旧庄内藩校「致道館」の学び等、テーマ別レポート）
『鶴南ゼミ』地域をテーマにしたプレゼンテーション（ビデオなど）
「衣」「食」に関する留学生向けプレゼンテーション（ビデオなど）
- ・ 小中高：英語キャンプ最終日に行われる英語による市内模擬観光案内の様子
代表生徒による英語観光案内実践の様子（ビデオなど）

(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第 学年 コマ	第3学年1コマ 第4学年1コマ 第5学年2コマ	第3学年1コマ 第4学年1コマ	第3学年1コマ 第4学年1コマ
②小学校 教科型	第 学年 コマ	第6学年2コマ	第5学年2コマ 第6学年2コマ	第5学年2コマ 第6学年2コマ

(5) 研究計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

○第一年次～第三年次、校種別

【第一年次】平成27年度

【研究1】10年間の系統性ある指導と評価

ア 小学校

①教育課程に関すること

- ・第3、4学年で活動型を1コマ分モジュール学習で実施。
- ・第5学年で活動型を2コマ、1コマ分は45分で、もう1コマはモジュール学習で実施。
- ・第6学年は教科型を2コマ、1コマ分は45分で、もう1コマはモジュール学習で実施。

②教材・指導法・評価に関すること

- ・第3、4学年では、“Hi, friends! 1” をもとに、音に慣れ親しむ指導法を研究する。
- ・第5、6学年では、“Hi, friends! 1,2” と補助教材を活用した指導法の研究を日本人外部人材非常勤講師と連携して行う。同時に、音と文字の基本的なルールに関する教材（簡単なフォニックス教材）や郷土学習に関する教材作成に着手する。
- ・第6学年教科型における「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」に係る適切な評価方法の研究、開発を中高英語教員と協力して行う。
- ・年2回開催される鶴岡市教育委員会主催「外国語活動研修会」において、研究校以外の小学校教員にも上記の取組について報告するとともに、英語活動の指導方法を共に研修する。

イ 中学校

①教育課程に関すること

- ・2、3年生に「特設英語（パワーアップ・イングリッシュ）」を設置し、習得した英語を使って課題解決型の活動を行う。

②教材・指導法・評価に関すること

- ・小学校「教科型」の指導を踏まえ、特に中学校1年生の指導の在り方について研究する。
- ・次年度に向け、「授業は英語で行うことを基本とする」ための研究を、高校の授業を参考にしながら進める。
- ・パフォーマンステストの研究
- ・「音」と「文字」をつなぐ教材の共同開発

ウ 高等学校

①教育課程に関すること

特になし

②教材・指導法・評価に関すること

- ・プレゼンテーションなどの高度な言語活動の展開
- ・高校入学時の「橋渡し教材」の作成
- ・パフォーマンステストの研究

エ 異校種間の連携に関すること

- ・授業参観（小小、小中、小高、中高）及び乗入授業（小中、中高）の実施
- ・高校配置外国人常勤講師による小中の定期訪問指導（週2日）
- ・鶴岡市主催小中合同「ブロック研究会」への参加
- ・授業参観での生徒の様子を参考にしながら、校種間のつながりを踏まえた CAN-DO 形式評価規準表を作成
- ・「音」と「文字」をつなぐ教材、郷土学習教材の共同開発
- ・研究推進委員会の立ち上げ、情報の共有

【研究2】郷土学習と英語による発信

ア 小学校

- ・社会科や「総合的な学習の時間」を活用した郷土学習の在り方の検討
- ・郷土学習教材（郷土を紹介するアルファベット・カルタ等）の開発

イ 中学校

- ・社会科や「総合的な学習の時間」を活用した郷土学習の在り方の検討
- ・山形紹介教材を活用した“My Favorite Tsuruoka”の作成

ウ 高等学校

- ・修学旅行先での外国人向け地元紹介
- ・鶴岡市紹介パンフレットの作成
- ・明治時代から続く地元絹産業にちなみ、絹製品で作ったドレスのファッション・ショーを英語で行う。
- ・旧庄内藩校「致道館」での学びの流れをくむ、小学校で慣れ親しまれている「庄内論語」の英訳

エ 児童生徒間交流

- ・「総合的な学習の時間」『鶴南ゼミ』や放課後を活用しての高校生による小学校外国語活動補助や絵本の読み聞かせの実施
- ・小中高合同英語キャンプの実施
- ・学校代表合同発表会の開催

【第二年次】平成28年度

【研究1】10年間の系統性ある指導と評価

ア 小学校

①教育課程に関すること

- ・第3、4学年で活動型を1コマ分モジュール学習で実施。
- ・第5、6学年で教科型を2コマ、うち、1コマ分は45分で、もう1コマはモジュール学習で実施。

②教材・指導法・評価に関すること

- ・第3、4学年では、“Hi, friends! 1,2”をもとに、独自教材、指導法を開発する。
- ・第5、6学年では、補助教材と独自教材を活用した指導法の研究開発を行う。同時に、次年度の「教科型」3コマ実施に向け、日本語と英語の特徴や語順の違いに無理なく気づけるような教材の開発に着手する。また、モジュール学習では音と文字をつなぐ基本的なルールに基づき指導を行い、読むことができる語彙を拡充する。
- ・地域の特色を載せた英語マップの作成
- ・第5、6学年における、パフォーマンステスト等の適切な評価方法の研究、開発
- ・年2回開催される鶴岡市教育委員会主催「外国語活動研修会」において、研究校以外の小学校教員にも、上記の取組の成果と課題について報告するとともに、教科「英語」の指導方法及び評価方法を共に研修する。

イ 中学校

①教育課程に関すること

- ・2、3年生の「特設英語（パワーアップ・イングリッシュ）」での簡易ディベートなど発展的な活動の実施

②教材・指導法・評価に関すること

- ・「授業は英語で行うことを基本とする」指導の実践
- ・小学校「教科型」の学習2コマを経験して入学してきた中学校1年生の指導の工夫
- ・次年度、小学校「教科型」の学習4コマを経験して入学してくる中学校1年生の指導の研究
- ・パフォーマンステストの改善

ウ 高等学校

①教育課程に関すること

特になし

②教材・指導法・評価に関すること

- ・高校入学時の「橋渡し教材」の吟味
- ・ディベート等さらに高度な言語活動の展開と代表生徒によるディベート県大会への出場
- ・「総合的な学習の時間」で行う課題研究に関する英語によるプレゼンテーションの実施
- ・研修旅行先である台湾の高校とのインターネット等を利用した双方向の交流
- ・パフォーマンステストの改善

エ 異校種間の連携に関すること

第一年次に同じ

【研究2】郷土学習と英語による発信

ア 小学校

第一年次と同じ

イ 中学校

- ・山形紹介教材を活用した“My Favorite Tsuruoka”（続編）の作成
- ウ 高等学校
- ・「総合的な学習の時間」における地域課題の探究と英語による発信の研究
 - ・旧藩校「致道館」での学び等、テーマ毎に英語で表現
 - ・鶴岡市「おもてなしパンフレット」の作成
 - ・地元大学の留学生を招待し、シルク製品で作ったドレスのファッションショーの実施と伝承野菜の創作料理紹介
- エ 児童生徒間交流
- ・「総合的な学習の時間」や放課後を活用しての高校生による小学校外国語活動補助や絵本の読み聞かせの定期的訪問
 - ・高校生が英訳した「庄内論語」の音読（日本語と対比しながら、小中学生が音読）
 - ・小中高合同英語キャンプの実施
 - ・郷土学習の成果をテーマとした学校代表合同発表会の開催
 - ・鶴岡市の姉妹都市ニューブラウンズウィックへの代表生徒「こども大使」派遣の検討

【第三年次】平成29年度

【研究1】10年間の系統性ある指導と評価

ア 小学校

①教育課程に関すること

- ・第3、4学年で活動型を1コマ分モジュール学習で実施。
- ・第5、6学年で教科型を2コマ、うち1コマ分は45分で、もう1コマはモジュール学習で実施。

②教材・指導法・評価に関すること

- ・第3、4学年では、開発した教材の系統的な配列を行う。
- ・第5、6学年では、副教材や独自教材、郷土学習教材を活用した授業実践、モジュール学習では音と文字の基本的なルールに基づいた教材を用いて指導を行い、読むこと、書くことができる語彙を拡充する。
- ・適切な評価の運用と総括
- ・独自教材のまとめと県教育センターホームページへの掲載
- ・年2回開催される鶴岡市教育委員会主催「外国語活動研修会」に加え、県教育センターが主催する「授業力アップ講座」等において、3年間の取組の成果と課題について報告するなど、全県の小学校教員に幅広く発信する。

イ 中学校

①教育課程に関すること

- ・2、3年生の「特設英語（パワーアップ・イングリッシュ）」で、簡易ディベート、プレゼンテーションなど、より発展的な活動を実施

②教材・指導法・評価に関すること

- ・「授業は英語で行うことを基本とする」指導の成果と課題の検証
- ・小学校「教科型」の学習4コマを経験して入学してきた中学校1年生の指導の工夫
- ・次年度、小学校「教科型」の学習5コマを経験して入学してくる中学校1年生の指導の

研究

- ・高校との接続を意識した「読むこと」、「書くこと」の指導の充実
- ・適切な評価の運用と総括

ウ 高等学校

①教育課程に関すること

- ・学習指導要領先行実施対象生徒と、そうでない生徒に対する入学時の指導体制の工夫（習熟度クラス編制等の検討）

②教材・指導法・評価に関すること

- ・ディベート、交渉などさらに高度な言語活動の展開とディベート県大会への代表生徒の出場
- ・適切な評価の運用と総括

エ 異校種間の連携に関すること

以下の項目以外は第二年次に同じ

- ・小学校高学年における「話すこと」の評価をパフォーマンステスト形式で行う。

【研究2】郷土学習と英語による発信

ア、イについては、以下の項目以外第二年次に同じ

- ・教科横断的な郷土学習に関する成果と課題の総括と報告書の作成、全県への発信

ウ 高校

- ・地元大学の留学生を招待し、「食文化」をテーマにした国際交流イベントの実施
- ・英語研修旅行先の高校との旅行後の交流、台湾の高校生の受け入れ、観光案内

エ 児童生徒間交流

- ・「おいしい庄内空港」での外国人向け観光PR、英語での市内観光ツアーの実施
- ・小中高合同英語キャンプの実施（前年の生徒観光大使はリーダーとして参加）と総括
- ・学校代表合同発表会の三年間の記録と成果・課題の総括
- ・鶴岡市の姉妹都市ニューブラウンズウィックへの代表生徒（観光大使）の派遣と、現地でのふるさと紹介の実施

○平成27年度の進捗状況・課題

【研究1】10年間の系統性ある指導と評価

ア 小学校

- ・第3、4学年での活動型の1コマ分のモジュール、第5学年での活動型の2コマ（45分1コマとモジュールで1コマ分）、第6学年での教科型の2コマ（45分1コマとモジュールで1コマ分）については、どの学校でも4月に実施体制を整備し、おおむね5月から実施となった。
- ・第3、4学年では、“Hi, friends! 1”をもとに、英語の音に慣れ親しむ指導を中心に行い、第5、6学年では、“Hi, friends! 1、2”及び“Hi, friends! Plus”を活用し、後半は文字に親しむ活動も取り入れた。
- ・モジュールと45分の授業の内容を関連させ、モジュールで身に付けたことを45分の授業で活用したり、45分の授業で学んだことをモジュールで振り返ったりすることが

できた。

- ・書く活動のように、児童の「できる」「できない」が見えやすい活動では、児童の取り組み方に大きな差が見られた。このことから、評価に関しては、慎重に行うべきであると考え、現在は検討段階であり、職員間の共通理解を図るための研修等を実施している。
- ・3年次は5，6年生で3コマの実施を計画していたが、今年度2コマの実施においてモジュールとのバランスが良好であり、また、教育課程の編成が困難であり、2コマでの実施に変更した。

イ 中学校

- ・2，3年生で「特設英語（パワーアップ・イングリッシュ）」を年間17時間設置した。
- ・特設英語の時間を活用し、スピーチやライティングを中心とした自己表現活動を行い、習得した英語を使って課題解決型の活動を行った。今後、パフォーマンステストの評価についても研究を進める必要がある。
- ・通常の英語の授業と特設英語との関連を考えて年間の授業内容を計画するために、時間の取り方に工夫が必要である。
- ・小学校「教科型」の指導を踏まえた、中学校1年生の指導の在り方についての研究については今後の課題である。

ウ 高等学校

- ・「鶴南ゼミ」での庄内を紹介するプレゼンテーションや鶴岡中央高の修学旅行先での庄内紹介など、英語で地域を発信する活動に、より目的意識を持って取り組んだ。
- ・毎週の英語科会の実施や日常的な授業研究など、校内の研究体制が整備され、授業改善への意識の共有化が図られた。
- ・パフォーマンステストの実施と評価に関しては検討課題である。

エ 異校種間の連携に関すること

- ・互いの校内研へ参加するなど、授業参観（小小、小中、小高、中高）を意識的に行うことができた。乗入授業（小中、中高）の実施については次年度以降の課題である。
- ・校種間のつながりを踏まえたCAN-DO形式評価規準表を作成した。今後各校種での見直しと年間計画への落とし込みが課題である。
- ・各校種をつなぐ部分の指導法や指導計画については次年度の課題である。

【研究2】郷土学習と英語による発信

ア 小学校

- ・年度の前半は研究体制を整備することに注力したため、【研究2】への取組が進まなかった。2学期より、「ランチメニューを作ろう」、「道案内をしよう」、「友だちを旅行に誘おう」といったレッスンで、地元庄内の特産品や児童が住んでいる鶴岡市内の地図を使った活動を実施した。
- ・今後、今年度作成した「ふるさと学習プログラム」を活用した郷土学習を実施していきたい。

イ 中学校

- ・教科書本文への導入のオーラルイントロダクションで、できるだけ生徒にとって身近な話題や鶴岡に関わる話題を扱うように工夫している。

ウ 高等学校

- ・鶴岡市紹介パンフレットを作成し、修学旅行先での外国人向けに庄内を紹介した。
- ・明治時代から続く地元絹産業にちなみ、絹製品で作ったドレスのファッション・ショーの一部を英語で行った。
- ・旧庄内藩校「致道館」での学びの流れをくむ、小学校で慣れ親しまれている「庄内論語」の英語版ハンドブックの作成に取り組んだ。

エ 児童生徒間交流

- ・高校生が小学校に訪問して絵本の読み聞かせや英語の指導を行った。小学生の英語への関心やあこがれの醸成の機会となっただけでなく、高校生にとっても、英語の音声や表現について学び直したり、高校生としての自覚を持って活動したりするよい経験となった。
- ・小中高合同英語キャンプを実施した。
- ・学校代表合同発表会を開催予定（2月）

(6) 評価計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

○第一年次～第三年次、校種別

- ・資料の収集とその分析は、年間を通して随時実施する。
- ・年次ごとに「研究推進委員会」が評価結果をまとめ、「運営指導委員会」に報告し、適宜指導、助言を受ける。

【第一年次】平成27度

【研究1】10年間の系統性ある指導と評価

ア 小学校

- ・各校の教育課程表の精査
- ・アンケート調査（対象：小学校6学年の児童、教職員）
- ・音と綴りのルールに関する教材等の独自教材

イ 中学校

- ・GTEC for STUDENTS のスコア分析（対象：第1学年～第3学年、7月実施）
- ・パフォーマンステストの結果分析
- ・レポートなどの学習成果物の分析
- ・授業研究会授業ビデオ分析

ウ 高等学校

- ・GTEC for STUDENTS のスコア分析（対象：第1学年、7月、12月実施）
- ・生徒自作シルク製品のファッションショーの英語での発信（ビデオ映像等）
- ・『鶴南ゼミ』課題研究の英語によるプレゼンテーション（ビデオ映像等）

エ 異校種間の連携

- ・小中高の到達目標（CAN-DO形式）の作成
- ・授業参観及び乗入授業の実施回数、実施教員数
- ・授業参観、授業研究会の実施回数及び参加人数

- ・高校配置外国人常勤講師の小中訪問回数
- ・高校入門期の「橋渡し教材」
- ・高校生による小学校での英語活動補助や絵本の読み聞かせの回数、感想
- ・小中高合同での英語キャンプでの様子、アンケート結果
- ・学校代表合同発表会での生徒の様子、アンケート結果

【研究 2】 郷土学習と英語による発信

ア 小学校

成果物：郷土紹介クイズ等

イ 中学校

成果物：“My Favorite Tsuruoka”

ウ 高等学校

成果物：観光パンフレット、「庄内論語」の英訳、小学校訪問レポート

【第二年次】 平成 28 年度

以下の項目以外、第一年次に同じ

【研究 1】 10 年間の系統性ある指導と評価

ア 小学校

- ・アンケート調査（対象：小学校5、6 学年の児童、教員）

イ 中学校

- ・GTEC for STUDENTS スコアの比較、分析（対象：第 1 学年～第 3 学年、7 月実施）
- ・アンケート調査（対象：中学校 1 学年の生徒、教員）

ウ 高等学校

- ・GTEC for STUDENTS スコアの比較、分析（対象：第 1、2 学年、1 2 月実施）

【研究 2】 郷土学習と英語による発信

ア 小学校

成果物：地域の特色を載せた英語マップ等

【第三年次】 平成 29 年度

【研究 1】 10 年間の系統性ある指導と評価

ア 小学校

- ・アンケート調査（対象：小学校 5、6 学年対象児童、教員）
- ・取組内容、成果と課題に関する報告書の作成、HP などによる全県への発信

イ 中学校

- ・アンケート調査（対象：中学校 1、2 学年の生徒、教員）
- ・取組内容、成果と課題、GTEC for STUDENTS や各種アンケートによる生徒の変容に関する分析結果に関する報告書の作成、HP などによる全県への発信

ウ 高等学校

- ・GTEC for STUDENTS スコアの総合分析（対象：第 1、2、3 学年、1 2 月実施）

- ・取組内容、成果と課題、GTEC for STUDENTS や各種調査による生徒の変容に関する分析結果に関する報告書の作成、HP などによる全県への発信

エ 異校種間の連携

- ・小中高の連携全般に係る成果と課題に関する研究報告書と全県への発信
- ・小中高の4技能に係る具体的指標（CAN-DO形式）の全県への発信

【研究2】郷土学習と英語による発信

ア 小学校

成果物：地域紹介カルタ、地域の特色を載せた英語マップ等、3年間の独自教材集

イ 中学校

成果物：完成版 “My Favorite Tsuruoka”

ウ 高等学校

成果物：完成版 「庄内論語」の英訳及びテーマ別レポート

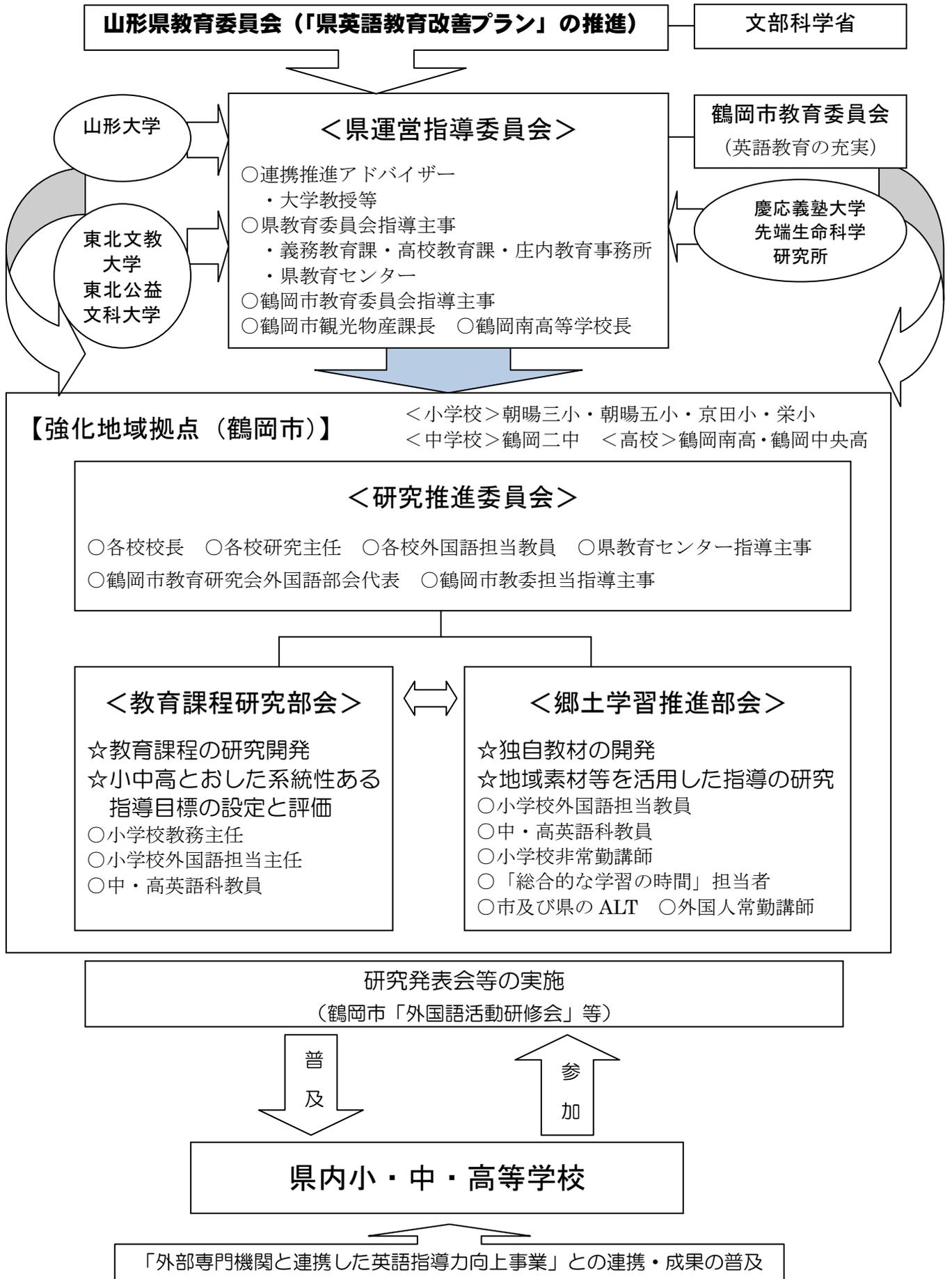
* 全校種を網羅した本研究全般に関する研究報告書及び郷土学習事例集

○平成27年度の進捗状況・課題

- ・鶴岡市内の小学校の教員を対象に、8月と11月の2回にわたり、フォニックスを扱った研修会を実施し、英語の文字と音声との結びつきについて研修をした。
- ・各校種共通で、アンケート調査（児童生徒、教職員）を実施予定
- ・中学校、高等学校で実施したGTEC for STUDENTSのスコア分析を行う予定。
- ・小学校の教科型及び生徒のプレゼンテーション等のパフォーマンスの評価については検討課題。
- ・小中高の到達目標（CAN-DO形式）の精査を行い、各校種の年間計画との整合性を図る。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



(2) 運営指導委員会

①活動計画

○活動計画

年3回、運営指導委員会を開催し、以下の点について指導・助言を行う。

- 1 小学校3、4年生「活動型」と5、6年生の「教科型」に関する指導方法や補助教材、独自教材の活用方法
- 2 小学校「教科型」の目標設定と評価の在り方
- 3 小学校の取組を受けて、中学校の目標設定の高度化
- 4 小中高の系統性ある到達目標設定と評価の在り方
- 5 高校配置外国人常勤講師の効果的な活用方法に関する助言
- 6 中高共通の指標である GTEC for STUDENTS の結果分析と今後の指導改善の視点
- 7 中高のつながりの部分に関する「橋渡し教材」の在り方
- 8 教科横断的な郷土学習の在り方に関する助言
- 9 郷土教材の開発と発信方法（「こども観光ガイド」の取組を含む）に関する助言
- 10 児童生徒間交流に関する助言
- 11 本研究の成果を広く周知するための支援及び研修会の在り方に関する助言

○平成27年度の進捗状況・課題

- ・各校の校内授業研究会に運営指導委員を招聘し、授業改善のみならず、研究の進め方についても、校種ごとの具体的なアドバイスをいただくことができた。
- ・佐野正之名誉教授からは定期的にメールでアドバイスをいただき、各校に配信した。外国語学習の基本的な考え方から現在求められている英語教育の方向性、研究の進め方など、きめ細かいアドバイスをいただくことができた。
- ・運営指導委員会において各校の取組状況や英語キャンプの報告を行い、それぞれの取組について評価・指導をいただいた。また、1月の運営指導委員会にあわせて授業参観を行い、その後の協議についても指導助言をいただく予定。
- ・運営指導委員会については、年間3回という限られた機会をより有意義なものにするために、会の運営や内容をより工夫する必要がある。
- ・研究推進委員会をより活性化させ、小中高の目指す方向性を共有するとともに、日常的に交流しやすい関係をつくるようにしたい。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	第1回研究推進委員会 ・顔合わせ・研究の目的・方針等の確認	
5月	第2回研究推進委員会 ・実施計画、指導内容、独自教材・地域教材についての協議	第1回運営指導委員会
6月	第3回研究推進委員会 ・事後研究、指導目標の共有化、児童生徒間交流の企画 校内研究会（鶴二中、朝三小、栄小、京田小、朝五小）	
7月	校内授業研究会（朝三小、栄小、京田小、朝五小） GTEC for STUDENTS（鶴岡南高校、鶴岡中央高校）	
8月	第1回外国語活動研修会（鶴岡市夏季研修講座と同時開催） （鶴岡市内小・中学校教員対象） 英語キャンプ（小中高生合同） （キャンプ最終日：鶴岡市内模擬観光案内）	
9月	実地調査（朝暘三小、鶴岡二中） 校内授業研究会（栄小、京田小）	
10月	第4回研究推進委員会 ・事後研究、補助教材・独自教材の活用状況 校内研究会（鶴二中、朝三小）	第2回運営指導委員会
11月	第二ブロック研修会（栄小学校） （鶴岡市内当該小・中学校教員対象） 第2回外国語活動研修会（鶴岡市内小・中学校教員対象） 校内研究会（鶴二中、朝三小、京田小、朝五小）	
12月	校内授業研究会（鶴二中、朝五小） GTEC for STUDENTS（鶴岡二中、鶴岡南高校、鶴岡中央高校）	
1月	第5回研究推進委員会（公開授業：京田小） ・公開授業とグループ協議による今年度の取組の振り返り	第3回運営指導委員会
2月	生徒代表合同発表会（小中高生合同）	
3月	第6回研究推進委員会 ・研究の成果・課題 ・次年度の計画	
<p>【その他の取組】※あれば記入</p> <p>高校配置の外国人常勤講師による小中学校への定期訪問（週2日程度）</p> <p>高校生による小学校外国語活動の補助（年4回）、絵本の読み聞かせ等</p> <p>高校入試改革における英語外部試験活用方法の検討（「入試改善検討委員会」にて）（年2回）</p>		